

様式第二号の八（第八条の四の五関係）

（第 1 面）

産業廃棄物処理計画書

令和 7 年 6 月 2 日

群馬県知事 山本一太 殿



提出者 〒560-0036
住 所 大阪府豊中市蛸池西町 2 丁目 7 番 2 6 号
氏 名 株式会社 日本電気化学工業所
代表取締役 倉智 真平

（法人にあつては、名称及び代表者の氏名）
電話番号 0276-62-9711

廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。

事業場の名称	株式会社 日本電気化学工業所 関東工場
事業場の所在地	群馬県邑楽郡大泉町吉田1210-2
計画期間	令和 7 年 4 月 1 日 から 令和 8 年 3 月 3 1 日 まで
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
①事業の種類	24-金属製品製造業
②事業の規模	製造品出荷額 54,000万
③従業員数	48人
④産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙 1

（日本工業規格 A 列 4 番）

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

(管理体制図)

別紙2

産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		別紙3	
	産業廃棄物の種類			
	排 出 量	t		t
	（これまでに実施した取組） 梱包材の簡素化（廃プラスチック類）を実施。 工法の改善（電着廃液）を実施。			
②計画	【目標】		別紙4	
	産業廃棄物の種類			
	排 出 量	t		t
	（今後実施する予定の取組） 上記同様に今後も抑制を継続実施。			

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	（分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 木くず、紙くず、廃プラスチック類は分別を実施するとともに、 他の廃棄物が混入しないように保管。
②計画	（今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組） 上記同様に今後も分別を継続実施。

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		別紙3	
	産業廃棄物の種類			
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量		t	t
	（これまでに実施した取組） 木くず、紙くずの一部再利用を実施。			
②計画	【目標】		別紙4	
	産業廃棄物の種類			
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量		t	t
	（今後実施する予定の取組） 上記同様に今後も再利用を継続実施。			

自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		別紙3	
	産業廃棄物の種類			
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量		t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量		t	t
	（これまでに実施した取組） 汚泥は脱水を実施。			
②計画	【目標】		別紙4	
	産業廃棄物の種類			
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量		t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量		t	t
	（今後実施する予定の取組） 上記同様に今後も脱水を継続実施。			

自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項

①現状	【前年度（令和6年度）実績】		別紙3
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行った 産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 特に実施していない。		
②計画	【目標】		別紙4
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は 海洋投入処分を行う 産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 実施予定なし。		

産業廃棄物の処理の委託に関する事項

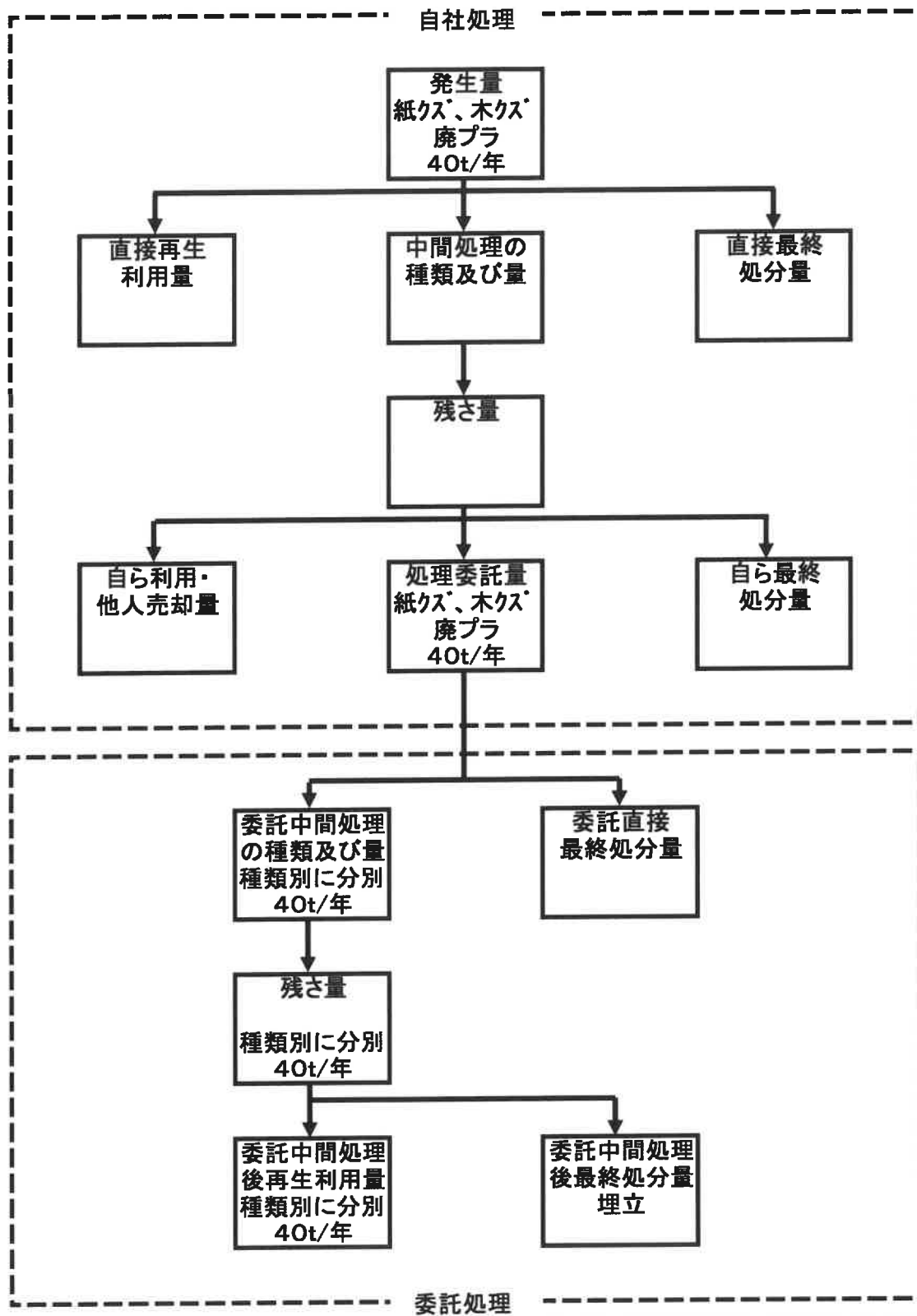
①現状	【前年度（令和6年度）実績】		別紙3
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 委託基準に従って、産業廃棄物を委託できる業者を選定し書面による 契約を実施。 再生利用が可能な廃棄物については、再生利用業者へ処理を委託。		

②計画	【目標】		別紙 4	
	産業廃棄物の種類			
	全 処 理 委 託 量		t	t
	優良認定処理業者 への処理委託量		t	t
	再生利用業者への 処 理 委 託 量		t	t
	認定熱回収業者 への処理委託量		t	t
	認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量		t	t
	(今後実施する予定の取組) 可能な限り優良認定処理業者から委託先を選定する。 また、再生利用が可能な廃棄物については、再生利用業者へ処理を委託する。 委託先処理業者には定期的に現地確認を実施する。			
	※事務処理欄			

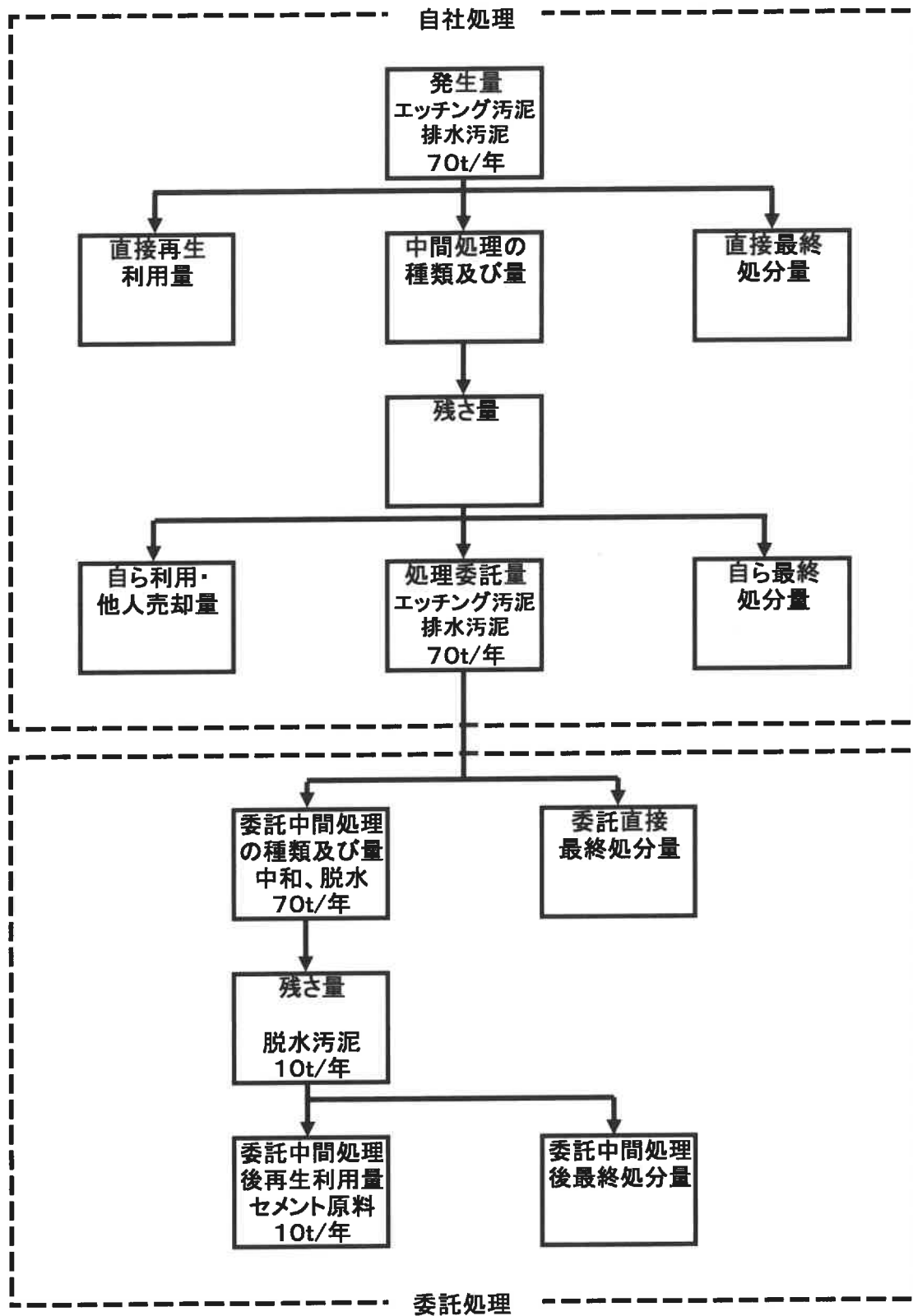
別紙1

産業廃棄物の種類別発生・処理工程

廃棄物の種類		発生源 (加工 フローシートNo)	性状	処理方法 ○社内処理 ●委託処理
廃 プラ 類 汚 泥	紙クズ、 木クズ等	①	バラ	●分類→●再利用 └→●焼却→●埋立
	エッチング汚 泥 排水汚泥	②	泥状	●中和→●脱水→●再利用
	洗浄水 (水酸化アルミ)	③	液状	○中和→○脱水→●再利用
汚 水	着色廃液	④	液状	●中和→●脱水→●再利用
	電着廃液	④	液状	●中和→●脱水→●再利用

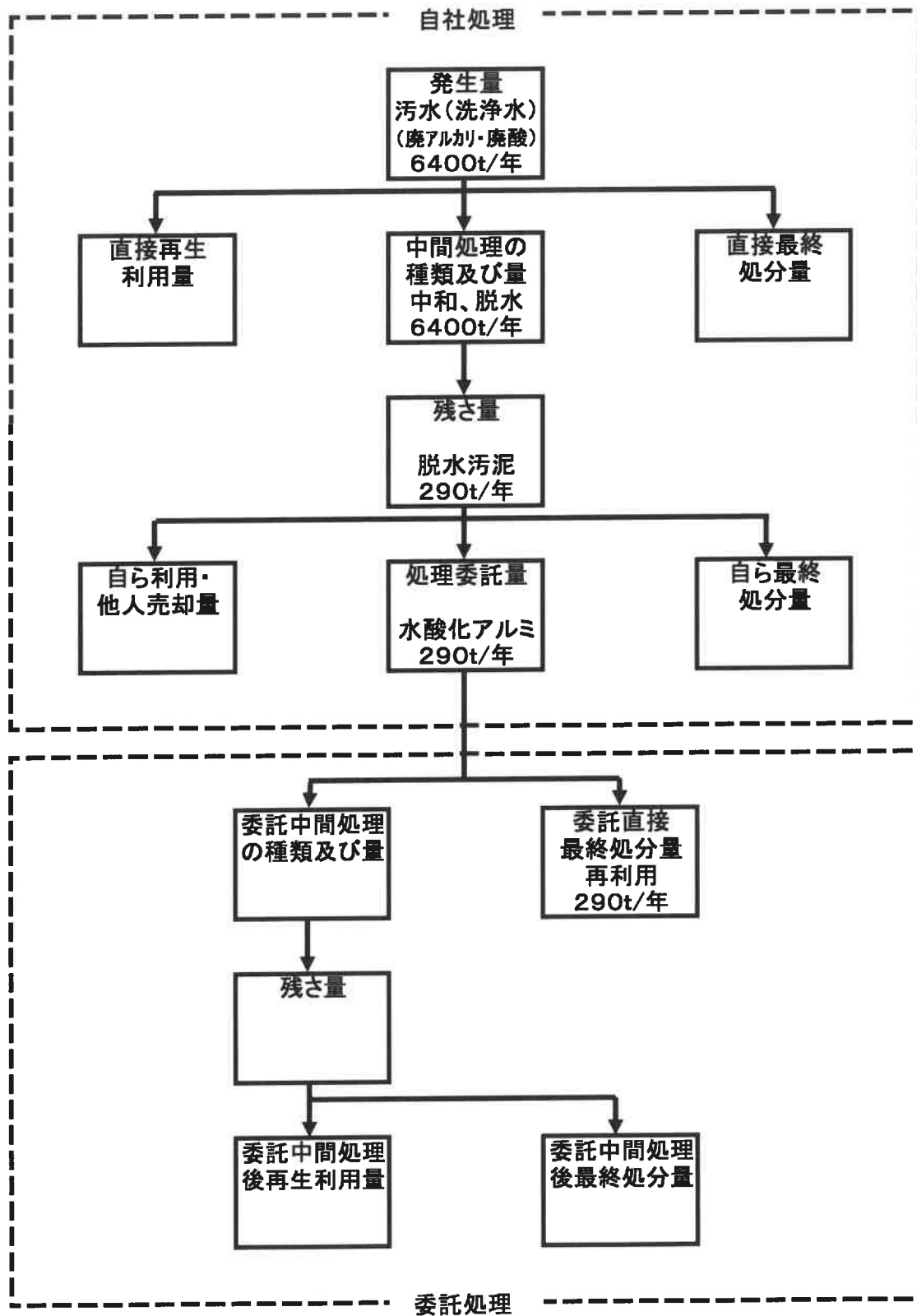
廃棄物処理フローシート
① 廃プラスチック

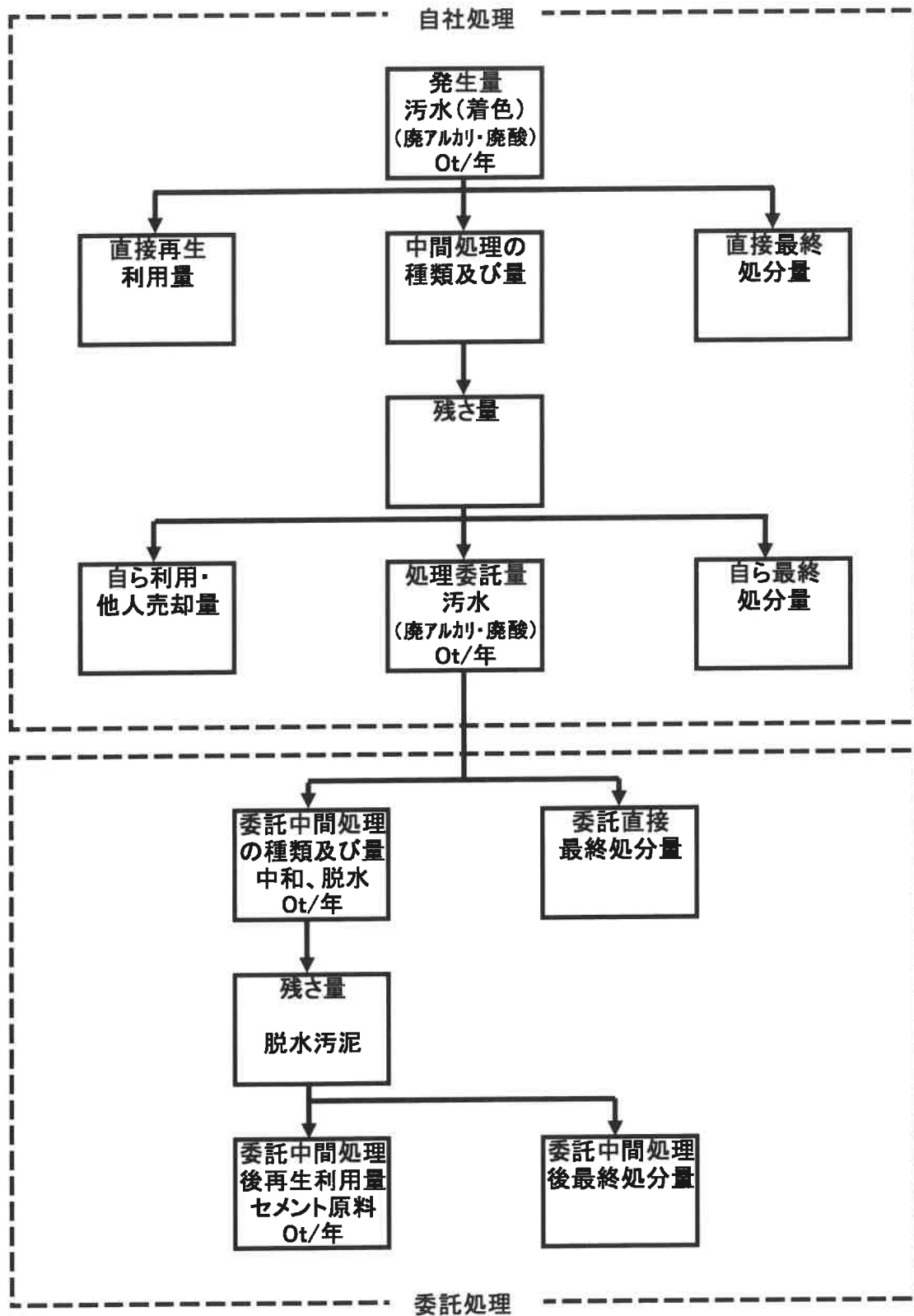
廃棄物処理フローシート
② 汚泥（清掃時発生）



廃棄物処理フローシート

③ 汚水



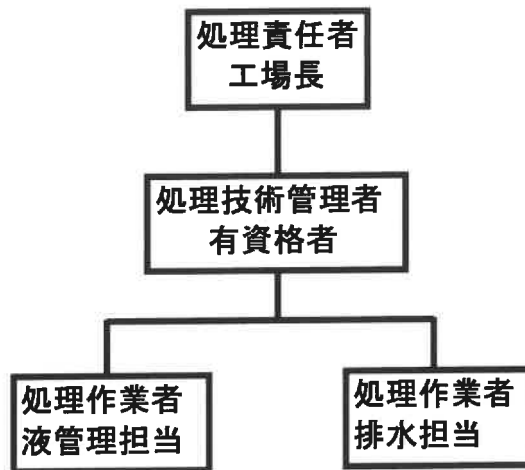
廃棄物処理フローシート
④ 汚水

別紙2

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項

- (1) 当工場で発生する廃棄物の処理及び、管理に関する事項は次に定める。
産業廃棄物処理手順書 別紙参照

(2) 廃棄物管理組織



令和6年度実績 産業廃棄物実績表

	発生量の目標	①産業廃棄物発生量	②自己直接再生利用量	③自己直接埋立処分又は海洋投入量	④自己中間処理量	⑤熱回収量	⑥自己中間処理残量	⑦自己中間処理により減量した量	⑧自己中間処理後再生利用量	⑨自己中間処理後直接埋立又は海洋投入量	⑩直接及び自己中間処理した後の処理委託量	⑪優良認定業者への処理委託量	⑫再生利用業者への処理委託量	⑬熱回収認定業者への処理委託量	⑭熱回収認定業者以外の熱回収業者へ委託量
廃プラ類	紙くず・木くず	40	35	0	0	0	0	0	0	0	35	35	0	0	0
	その他	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	42	35	0	0	0	0	0	0	0	35	35	0	0	0
汚泥	エッチング汚泥	30	21	0	0	0	0	0	0	0	21	21	0	0	0
	排水汚泥	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	30	21	0	0	0	0	0	0	0	21	21	0	0	0
汚水 (水酸化アルミ・ 廃アルカリ・ 廃酸)	洗浄水	6,400	6,170	0	0	0	220	5,950	0	0	220	0	220	0	0
	着色廃液	50	112	0	0	0	0	0	0	0	112	112	0	0	0
	電着廃液	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	廃酸	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	6,450	6,282	0	0	0	220	5,950	0	0	332	112	220	0	0
計		6,522	6,338	0	0	0	220	5,950	0	0	388	168	220	0	0

令和7年度計画 産業廃棄物計画表

発生量の目標	①産業廃棄物発生量	②自己直接再生利用量	③自己直接埋立処分又は海洋投入量	④自己中間処理量	⑤熱回収量	⑥自己中間処理残量	⑦自己中間処理により減量した量	⑧自己中間処理後再生利用量	⑨自己中間処理後直接埋立又は海洋投入量	⑩自己中間処理した後の処理委託量	⑪優良認定業者への処理委託量	⑫再生業者への処理委託量	⑬熱回収認定業者への処理委託量	⑭熱回収認定業者以外の熱回収業者へ委託量
廃プラ類	紙くず・木くず	40	0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	0
	その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	40	0	0	0	0	0	0	0	40	40	0	0	0
汚泥	エッチング汚泥	60	0	0	0	0	0	0	0	60	60	0	0	0
	排水汚泥	10	0	0	0	0	0	0	0	10	10	0	0	0
	小計	70	0	0	0	0	0	0	0	70	70	0	0	0
汚水 (水酸化アルミ・ 廃アルカリ・ 廃酸)	洗浄水	6,400	0	0	6,400	0	6,110	0	0	290	0	290	0	0
	着色廃液	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	電着廃液	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	小計	6,400	0	0	6,400	0	6,110	0	0	290	0	290	0	0
計		6,510	0	0	6,400	0	6,110	0	0	400	110	290	0	0